米国

金融政策動向（2026年7月FOMC）

5会合連続で金利据え置き、2%物価目標達成へ強い姿勢示す

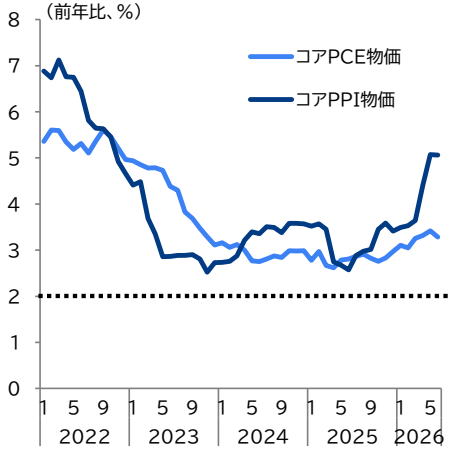
政策・経済センター
江口修平・淺井優汰
03-6858-2717

1 FOMC声明要旨

結果	・政策金利の誘導水準を3.50-3.75%で維持 ・3名が反対票を投じ、0.25%ポイントの利上げを支持
経済動向	・中東紛争に起因する不確実性の高まりにもかかわらず、経済活動は堅調に拡大 ・生産性の伸びと設備投資は力強い ・雇用者数の増加は労働力人口の増加と歩調を合わせており、失業率はほとんど変化していない ・インフレ率は、2%の目標と比べ、依然として高い水準にある。

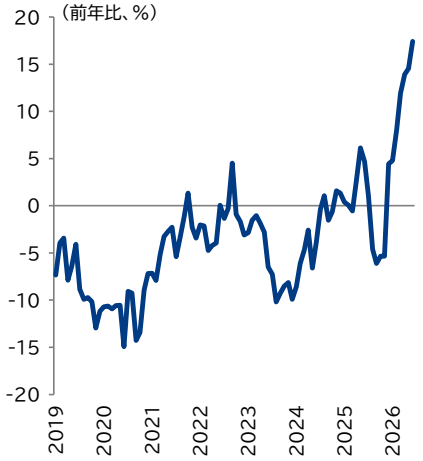
出所：FRBを基に三菱総合研究所作成

2 コアPCE物価・コアPPI物価



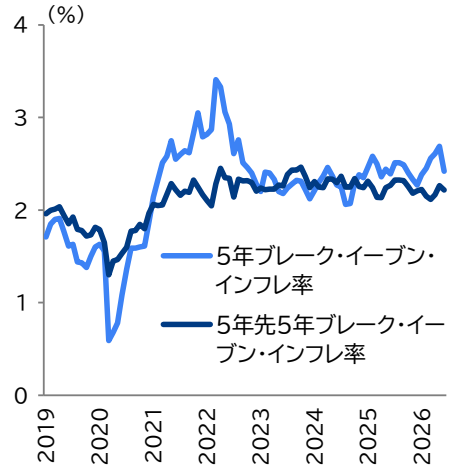
注：コアPCEは食品・エネルギー除く。コアPPIは食品・エネルギー・流通マージン除く。直近は26年6月。点線は2%水準。
出所：米商務省、米労働省を基に三菱総合研究所作成

3 「コンピュータ・ソフトウェア・関連アクセサリー」の価格指数



注：PCEの「Computer Software and Accessories」。
出所：米商務省を基に三菱総合研究所作成

4 市場参加者の期待インフレ



注：直近は26年6月。5年BEIは現在から5年先までの期待インフレ率、5年先5年BEIは6-10年先の期待インフレ率を示す。
出所：米財務省を基に三菱総合研究所作成

評価ポイント

決定事項

- FRBは7月FOMCにて、政策金利の誘導目標を3.50-3.75%に据え置いた。6月FOMCでは全会一致での金利据え置きとなったが、本会合では、3名の地区連銀総裁が反対票を投じ、0.25%ポイントの利上げを主張した。
- FOMC声明文は前回から大きな変更はなされず、引き続き、FRBの今後の金融政策の方向性を示す「フォワード・ガイダンス」は提示されなかった（図表1）。
- ウォーシュ議長は記者会見冒頭で、「インフレ率は目標と比べ依然として高い水準にある」とした上で、「FRBが実質的に2%を上回るインフレ目標を設定している」との見方を否定し、改めて2%物価目標達成への強い姿勢を強調した。

今後の注目点

- 3名の地区連銀総裁が即時利上げを支持するなど、FRBはインフレ高止まりへの警戒を強めている。実際、①関税コストの価格転嫁の進展、②AI需要の拡大、を背景にコアPCE物価上昇率は上昇基調にある（図表2）。特に②について、コンピュータなどのAI関連品目の価格上昇が加速している（図表3）。加えて、中東情勢の不安定化に伴うエネルギー価格の上昇を受け、コアPPIの伸びも高水準で推移しており、インフレ率が一段と上振れる懸念が高まっている。
- こうしたなか、先行きの焦点は、FRBが利上げに踏み切るか否かである。当社は、以下の2点から、コアPCE物価上昇率は先行き緩やかに鈍化し、FRBは当面、政策金利を据え置くとみる。
- 第1に、中長期の市場参加者の期待インフレは安定している（図表4）。第2に、労働需給は均衡しており、サービス物価の動向を左右する賃金上昇率も鈍化傾向にある。エネルギーや一部財の価格上昇が広範な品目に波及する可能性は限定的とみられ、物価上昇率は2%目標へ徐々に収れんすると見込む。
- ただし、中東情勢の深刻化に伴うエネルギー価格の再高騰や、AI需要に起因するインフレ圧力が一段と強まった場合には、FRBはインフレ抑制に向けて、年内にも利上げに踏み切るだろう。今後の物価・賃金指標の動向が注目される。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.